

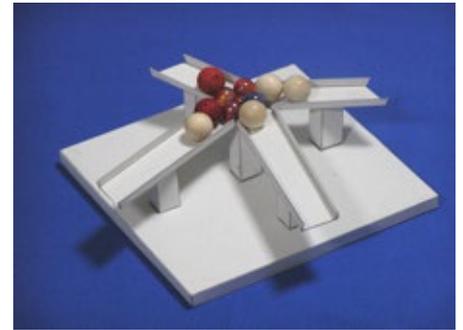
# 不可能立体の杉原厚吉先生がOICでご講演！！

入場無料・申し込み不要

立命館大学認知科学研究センター主催  
北岡明佳(総合心理学部)司会

日時：2024年5月9日(木) 17:00-18:30

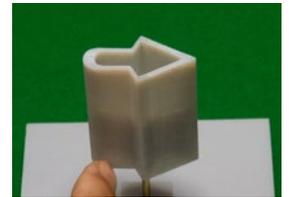
場所：立命館大学大阪いばらきキャンパス (OIC)  
B棟3階 B374 コロキウム



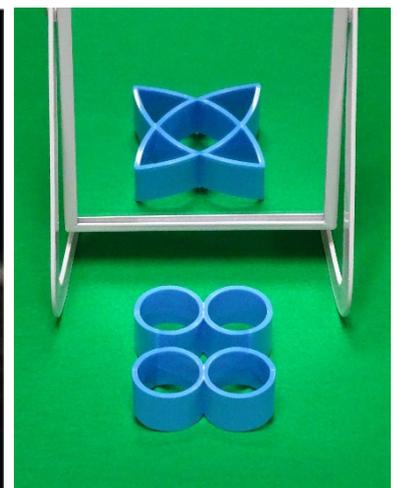
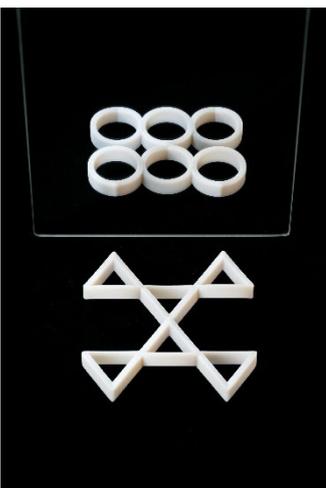
タイトル：**絵から飛び出した不可能立体の世界**

概要：「不可能立体」という言葉は、だまし絵を見たとき頭の中に浮かぶ架空の3次元構造という意味で使われ始めました。オランダの版画家エッシャーが作品の素材に使ったことでも有名です。その後、だまし絵と同じに見える立体を作るトリックもいくつか見つかりましたが、特別な視点から見たときだけ成立するトリックなので、絵の延長に過ぎませんでした。しかし、最近になって、視点のある範囲で動かしても「あり得ない」という感覚が起こり続ける立体錯視を見つけました。それを、数学的背景とともに紹介します。実在する立体を使ってあり得ない立体を表現することができますから、不可能立体が真に絵から立体へ飛び出したと言っていいでしょう。

講演者：**杉原 厚吉** (明治大学先端数理科学インスティテュート 研究特別教授)



プロフィール：1973年東京大学大学院工学系研究科修士課程修了後、電子技術総合研究所、名古屋大学、東京大学などを経て、2009年より明治大学へ着任し、2019年4月より現職。専門は数理工学。ロボットの目を開発する研究の中で、不可能図形のだまし絵を立体化する手法を見つけ、立体錯視の分野へも研究を広げてきた。さまざまな不可能立体を創作し、立体錯視アーティストとしても活躍している。国際ベスト錯覚コンテスト優勝4回、準優勝2回。錯視立体作品は、2018年9月より2020年5月までの1年8ヶ月にわたって台湾の国立故宮博物院で特別展示されるなど、多くの科学館・美術館で展示の実績を持つ。



認知科学研究センターの関係者はオンラインでもご参加頂けます。